

初代萬代橋 ②

■初代萬代橋完成

架橋工事は、明治19（1886）年3月に始まり、10月初めに橋の本体が出来上がり、下旬には西詰側の取付道路が完成しました。11月4日に竣工式が挙行され、式を見ようとして数万人の群衆が集まりました。完成した萬代橋は日本一長い木橋となりました。しかし、萬代橋の架橋費は内山の予算を大きく上回ったため、翌年には内山と八木の共同経営に、そして明治22（1889）年には八木ひとりでの経営となりました。



西詰側からみた竣工式（当館所蔵）
中央の建物は橋番人小屋

■有料橋から無料化へ

当時、萬代橋は私有の有料橋でした。通行には1人1銭の橋銭が必要でした（架橋工事の人夫の賃金が1日14銭）が、橋を利用する人は予想より少数で、修繕費もかさみ、経営状態は苦しいものでした。

萬代橋の利用者が急増したのは、北越鉄道（後の信越線）沼垂駅が開業した明治30（1897）年からでした。鉄道で沼垂駅に発着する旅客と貨物が、橋の交通を活発にしたのです。そのため、明治33（1900）年、新潟県は萬代橋を買収して通行を無料にしました。さらに明治37（1904）年に新潟駅（現在の弁天公園付近）が開業したことで、萬代橋は通勤や通学、買い物など日常生活にも欠かせない橋になっていきました。



（右）五姓田芳柳筆「新潟萬代橋」図（新潟市歴史博物館所蔵、市指定文化財）と、（左）そのもとになった写真（当館所蔵）